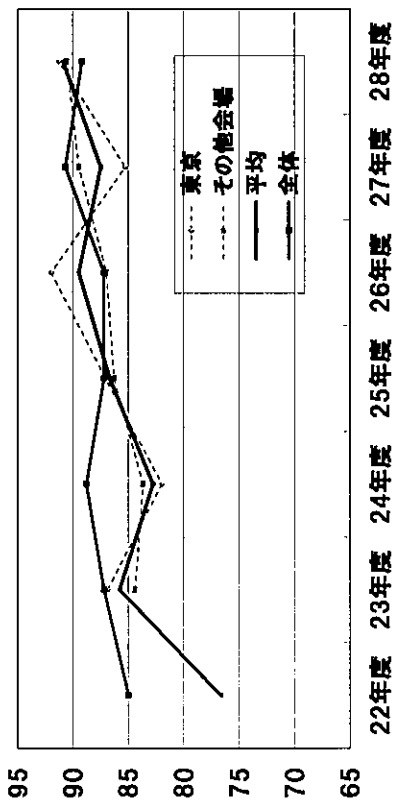


部門名【生産部門】

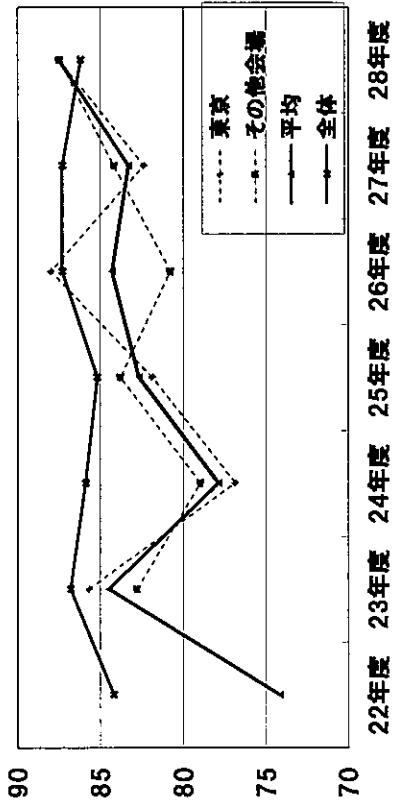
平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方向性

1. 総括

総合



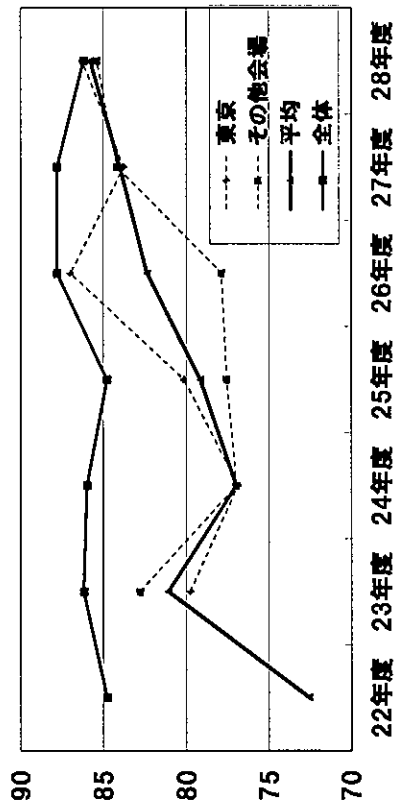
事例研究 (理解度)



<考察>

- 全体的に右肩上がりでありと全体平均を超えることが出来た。
- 会場間での差は小さくなってきており、事例研究の充実と講師のレベル向上によるものと推察。

事例研究 (役立度)



部門名【 生産 部門】

平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方向性

参加者の声

＜良かった点＞

- ・ 特性要因図を使ったグループ討議での気づき
- ・ 同じ職種でのグループディスカッション
- ・ 事例研究
- ・ 工場見学

＜改善点＞

- ・ 2回目参加で同じ内容
- ・ 特性要因図そのものをもう少し深く学びたかった。

2. 来年度の方向性

1. 実技演習の課題の設定
 - ・再受講に向けた内容
 - ・実務に活かせる内容

2. コミュニケーション時間の配分

- ・テーマ選定が大事

(これまでの傾向から“与える”より“持ち込んだ課題”の討議が評価良

3. 工場見学の内容の充実

- ・テーマに沿った見学ツアーの設定
- ・参加者が持ち帰りたくなる改善事例の発表
(事前に各社の共通課題の共有)

部門名【邸別設計部門】

平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方角性

1. 総括

■品質向上講習会

1)概要: 事例研究テーマ【感動を呼ぶ“邸別設計”のあるべき姿について】

お客様に感動いただいた設計事例3題＋受講者の感動実例紹介⇒GD⇒気づき⇒明日からの実践宣言
2)受講者: 東京42名(女性6名) 20代2名(4.7%)、30代11名(26.2%)、40代24名(57.1%)、50代5名(11.9%)
名古屋24名(女性1名) 20代0名(0.0%)、30代9名(37.5%)、40代14名(33.3%)、50代1名(2.3%)
3)結果: 品質管理 理解度88.6%(1位)←80.2%(5位)、役立度86.0%(1位)←82.8%(4位)

事例研究 理解度93.2%(1位)←85.9%(3位)、役立度93.2%(1位)←90.3%(2位)

総合評価 93.1%(2位)←90.3%(2位)

4)評価FA:「設計として見失っていたことを改めて思い出した」、「他社の方との意見交換が非常に有意義」

改善FA:「GD時間不足」、「他社の事例もつと見たかった」、「全体討議がしたかった」

■展示場見学

1)概要: 東京: 駒沢公園MH(積水ハウス・大和・ミサワ・トヨタ・住林・パナ・旭化成) 7展示場×30分
名古屋: 住まいるパーク岐阜駅MH(積水ハウス・大和・トヨタ・住林・パナ・旭化成) 6展示場×30分
2)受講者: 東京18名←13名 名古屋15名←3名(福岡)

3)結果: 東京91.7%←98.1% 名古屋84.4%←91.7%(福岡) 全体88.8%←96.9% **昨年より8.1%DN**
(名古屋2階建中心で差別性少)

4)評価FA:「普段見られない他社MH勉強になる」、「設計コンセプト参考になる」

2. 来年度の方向性

【事例研究】

■重点ポイント

- ・事例発表の共感度
- ・受講者同士のGDの活性化

【展示場見学】

■重点ポイント

- ・トレンドがわかる展示場
 - ・東京会場⇒錦糸町MH ⇔ 中層MH
 - ・大阪会場⇒千里MH ⇔ 環境共生MH

部門名【施工部門】

平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方向性

1. 総括

- ・総合評価(全体)は昨年度より各部門とも評価平均のポイントが高いので、全体として相対的な満足度は向上しているように感じられます。
- ・事例発表が、きれいなので、もう少し現場のベタな部分に視点を当ててほしいのかも。
例えば、各社で施工起因で品質クレームになっている内容の紹介。
普段の自分たち(出席者)のやっている視点到近いうところをも持ってきた方が、分りやすいのかと。
今回の業者さんの評価は、結果的にグループディスカッションに繋がりにくかった。
- ・事例研究のテキストについては「改善の余地あり」が前回に比べて微増、コメントからはあまり具体的な改善要望は判然としないが、グループ討議のテーマとの連携が今一歩不足していた。
- ・グループディスカッションのグループ間のレベル差の是正は難しいですが、よりレベルを高める方策として、レジメ等の資料充実を図る必要性あり。
- ・出席者の業務内容、経験年数を申し込み時に調査して、グループ分けに活かせればよい。
- ・女性も適度に参加してもらえようになりたい。

2. 来年度の方向性

- ・参加対象者を若手としていた。ある程度の幅はあったほうが良いが、拠点の技術トップ等は少し違和感があるので、改めて対象を明記して伝える。
- ・品質改善活動を深化させるには、ある程度の立場でないとは出来ないのでは、中堅層（経験5～10年）にしてみるのも方法。（あまり上位だとこの講習会では物足りない）
- ・工事監理者と施工管理者では業務の位置付けや実務面で微妙に違いがあるので、グループメンバーの内訳には支障の無い範囲で役割属性を明示するか、属性でグループ構成をするとより討議の活性化が期待できる。
- ・グループディスカッションは、グループによりレベルが異なるので、ディスカッションを深めるレジメは必要。ディスカッションのネタ、キーワードの充実を。将来に向けた構想や提案を討議する場であっても良いかと思う。
- ・参加者に対して、各自の課題、問題意識の整理等、事前に準備をお願いする。
- ・テーマ的には、参加者の実務に近いところでの品質問題にするのがわかりやすい。また、将来に向けた構想や提案を討議する場であっても良いかと思う。
- ・議論するテーマ内容を、会場で2、3テーマに分けてはどうか（同じ内容で多くの班が発表すると、似たような話が多くなり、聞いている方も飽き気味になっていた）

部門名【アフターサービス部門】

平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方向性

1. 総括

・総合満足度で何とか1位を維持できたが、事例研究の評価は「お役立ち度」「理解度」共に、設計に次いで2位。昨年度より全部門で評価が向上している中、拮抗してきた。
東京に比べて名古屋の評価が「お役立ち度」で▲3.3P、「理解度」で▲2.3P低かった。

・今回のテーマ選定は良かったと思われる。現場担当者にとって身近なテーマはディスカッション易く、満足度も取りやすい。
一方、プレハブ住宅としてのブランド向上、国の施策・動向を含めた向かうべきビジョンなど、現場の人に目を向けてほしいテーマも必要。

【フリーアンサーより】

- ・同じ悩み事を共有でき、各社の取り組みが聞けて良かったという声が大半。
- ・iPadなどIT系ツールについての反応が多かった。もっと知りたい。
- ・ディスカッションの時間については、総じて丁度よい～足りない、もっと欲しいという意見が多かった。（長いという意見はなかった）
- ・事前課題はもっと絞ったテーマが良かった。
- ・もう少し掘り下げた事例のディスカッションをしたい。
- ・資料をもっとポイントに絞った方が分かりやすい。
- ・各社の点検内容を見てみたい。（展示場などで）
- ・懇親会にもっと参加すべきだ。
- ・継続して参加したい、今後も参加したい、来年も参加したいという方もいた。
- ・ガラスの熱割れ等 2017.03に完成する資料が見たい。⇒ CS小委員会メンバー
- ・名古屋で「お役立ち度」3と4の方がいた。3 既に知っていることだった。4 特に得る情報なし。午前中全て講義という時間があったくない。

2. 次年度の方向性

議論のたたき台として

◆ テーマ設定について

- ・現場担当向けのテーマ
- ・将来ビジョン型のテーマ
- ・幅広いテーマ
- ・その時のトレンドに関係したテーマ
- ・住生活基本計画と連動したテーマ
- ・プレ協中期計画と連動したテーマ

2015 点検 / 2016 ベストアンサー
2014 ライフタイムシェアの向上 (長期CS)
2013 CS向上活動 / 2012 お客様視点のアフターサービス
2011 各社の震災対応が中心の発表 / 2007 「200年住宅」における長期視点のAS課題
流通&リフォーム
既存住宅の価値向上、点検人材の向上

◆ 新たな運営形式の検討

- ・問題解決手法を用いたケース(過去) 2004以前 TQC / 2005・2006 システム思考
展示場等で各社の点検の実演を見る (受講生が多すぎて班分けが必要)
- ・実演を見る
- ・DVDにて実態公開

◆ 運営についての改善点

- ・交流会参加数向上
 - ・各社の発表に重点
- 全体のキャパとの兼ね合いあり
IT系ツールの発表、

部門名【リフォーム部門】

平成28年度プレハブ建築品質向上講習会の総括と来年度の方向性

1. 総括

テーマ『安心の「品質」で信頼を高め、プラスワン行動で感動を！』

■総合評価は名古屋1位、東京5位で総合5位であったが、対前年の改善度は4.6ポイントアップと大幅に改善された。

■今年度は品質向上講習会アンケート総合評価の上位進出を目指し、年度初めより具体策の検討を実施した(ストック分科会にて)。評価を上げるために研修参加者に持ち帰って頂くツール、マニュアル類(お土産)を各社で持ち寄り、研修終了時にお渡しするよう工夫した。講義資料のデータ希望者に後日、データ提供。

■ダイバーシティが叫ばれる中、リフォーム部門の特性を意識し、女性参加者を伸ばすよう申し合わせ、成果を上げることができた。(女性参加比率:東京会場=47.4% 名古屋会場=29.4%)

■アンケートのコメントで事例研究でのテーマ『女性活躍』『健家化(すこやか)リフォーム』の文言が数多くみられ、時流に沿ったテーマ選定であったと確認された。中には講義録のビデオ化要望も寄せられた。

2. 来年度の方向性

■運営

- ・参加者及び女性参加者増を目指す
- ・持ち帰りツール及び講義データの配布は継続し、現場に帰ってから活用できる資料の提供及び質の向上

■内容

- ・リフォームが各社の主力事業であることの確認と工業化住宅リフォームの優位性(安心、人財のレベルが違う)を訴求する
- ・各社の先進事例、成功事例を学び、仕事に活かしていく
- ・女性活躍の場として、女性視点でリフォームを追及していく

■課題

- ・担当分野の幅が広く、講習参加者の経験年数にもばらつきがあるため、講義テーマの「理解度」、「役立度」の評価差が広がった。チーム編成に工夫が必要。